

# 令和6年能登半島地震 港湾の復旧・復興のあゆみ

## 港湾の復旧・復興方針について

能登半島地震により被災した各港湾では、発災直後から応急復旧を進めた結果、荷役や漁業が再開され、災害廃棄物の海上輸送も行われるなど、港湾施設の利用再開が進んでいます。

事業者や漁業者の利用を確保しながら、段階的に港湾の復旧を進めるため、各港湾の今後の取組を12月に公表しました。このうち、輪島港、飯田港については、早期の復旧と同時に復興に資する機能強化も図ることとしています。

引き続き関係者と連携し、復旧・復興に取り組んでまいります。

## 飯田港の機能強化（建設発生土等を活用した埋立地の造成）

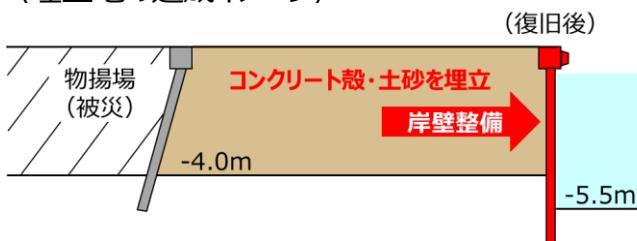
珠洲市では、公費解体や災害復旧工事で発生するコンクリート殻、土砂を活用し、**新たな埋立地を造成**することで、将来の土地利用の需要に備えます。

公費解体により発生したコンクリート殻



ジャンボリー跡地

〈埋立地の造成イメージ〉



## 輪島港の機能強化（浚渫土を活用した埋立地造成、施設の移転集約）

海底隆起により水深の浅くなった輪島港では、浚渫工事が進められています。浚渫により発生する土砂を活用して、

- ① 埋立地を造成し、分散している漁業共同利用施設を移転・集約します。
- ② 第4防波堤の背後に浅場（あさば）を造成し、稚魚等の生息環境をつくとともに、防波堤の強化を図ります。

〈②浅場の造成イメージ〉

